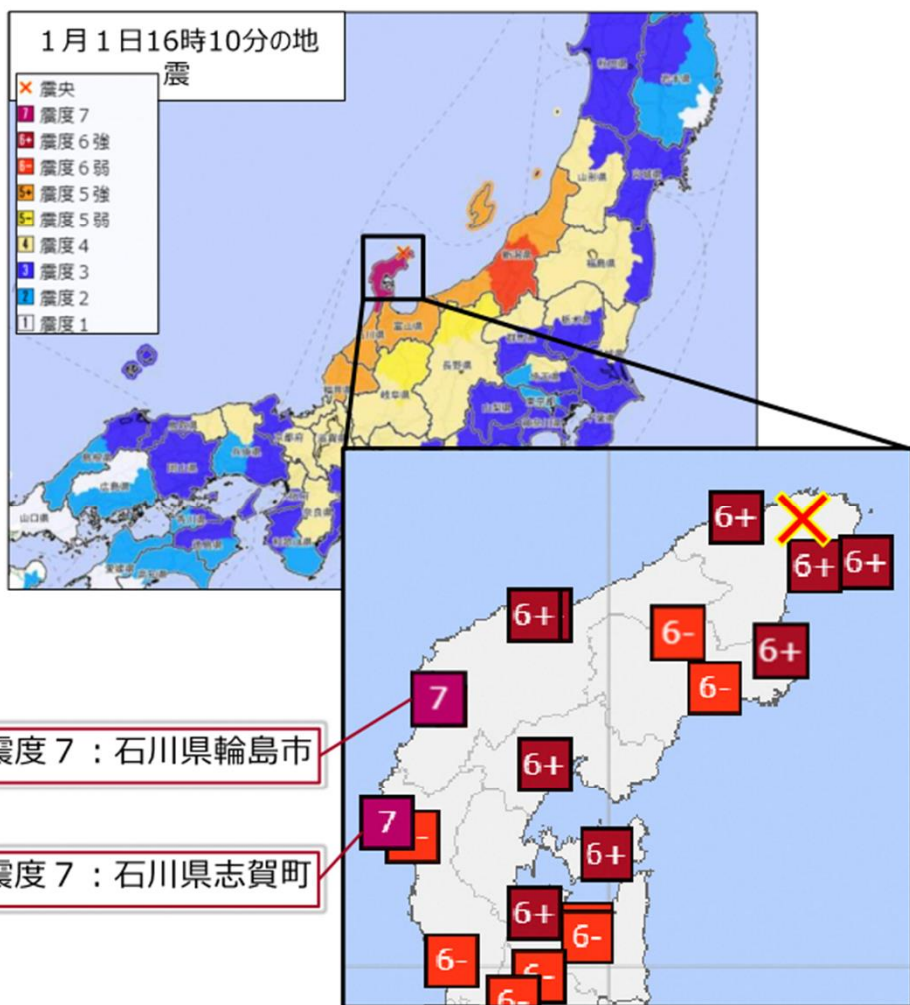


能登半島地震を踏まえた取組

1. 能登半島地震の概要

- 2024年1月1日16時10分にマグニチュード7.6、深さ16kmの地震が発生
- 石川県志賀町及び輪島市で震度7を観測したほか、北海道から九州にかけて震度6強～1を観測
- 輪島港で1.2m以上、富山で0.8mなど各地で津波を観測

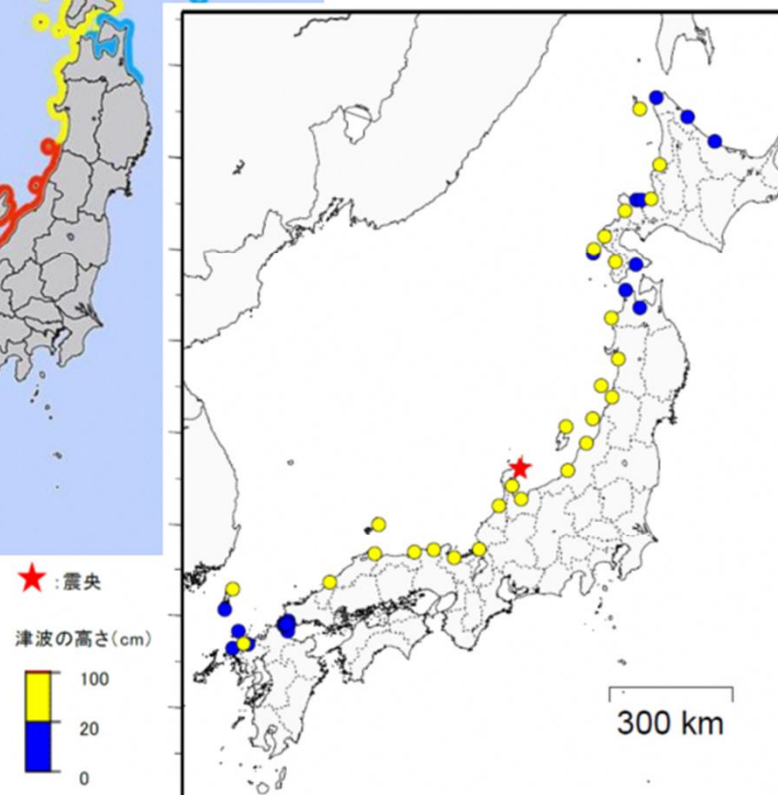
■ 震度分布図



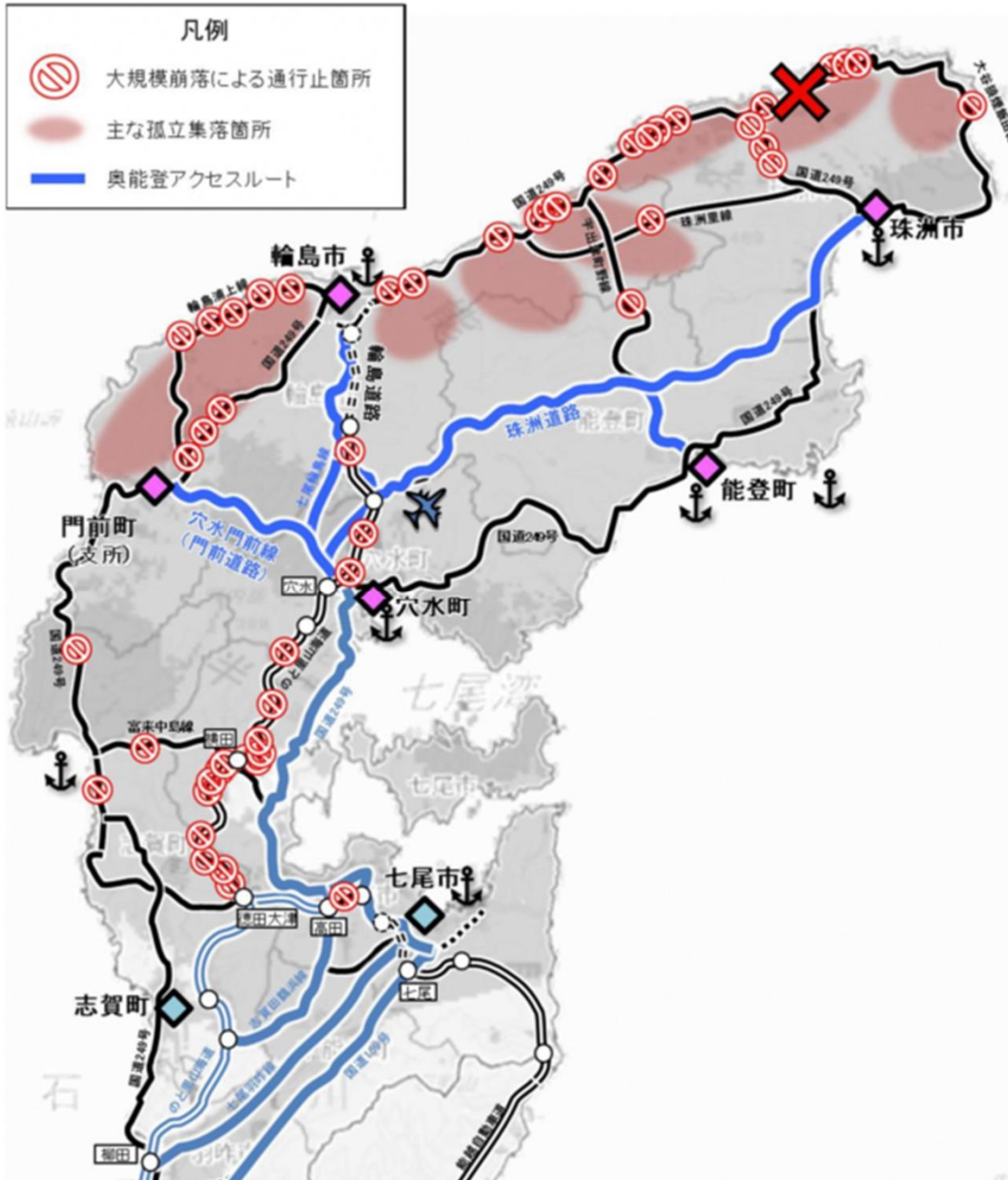
■ 津波警報等発表状況（1月1日16時22分発表）



■ 津波の観測状況



1. 能登半島地震の概要 (被害)



覆工コンクリート崩落



斜面崩壊



高盛土被災



液状化現象



橋梁被災(桁端・支承)



橋台背面段差
約1.5mの段差

※石川県内(震度6弱以上)の3018橋中、落橋した橋梁は、報告されていない

1. 能登半島地震の概要（現状と課題）

現状認識

地域的特色

- ・能登半島は、三方を海に囲まれた山がちな地形であり、低平地が非常に乏しい。
- ・限られた地域に集落が点在するとともに、道路ネットワークも限られる。

道路被災の特色

- ・地震動のほか、土砂崩落、津波浸水、液状化等により、高規格道路から市町村道に至るまで大規模に被災し、ネットワークが寸断される状況が発生した。
- ・特に、高規格道路の盛土構造を含む区間の復旧に長時間を要した。

被災の特色(全体)

- ・道路ネットワークの被災により、多数の孤立集落が発生した。
- ・寸断されたライフラインの復旧や被災地域への迅速な支援活動などが進まず、断水や避難生活が長期化した。

主な課題

道路ネットワークの寸断による復旧活動等の困難化

アクセスルートとして機能すべき高規格道路の被災

道路啓開の実行性の向上
(計画の事前準備による更なる実効性向上)

国土幹線道路部会 令和6年能登半島地震を踏まえた緊急提言(令和6年6月)抜粋

能登半島地震を踏まえ、地理的背景がよく似た伊豆半島においても、迅速な人命救助や拠点施設までのルート確保のため、「半島防災」が重要

能登半島と伊豆半島

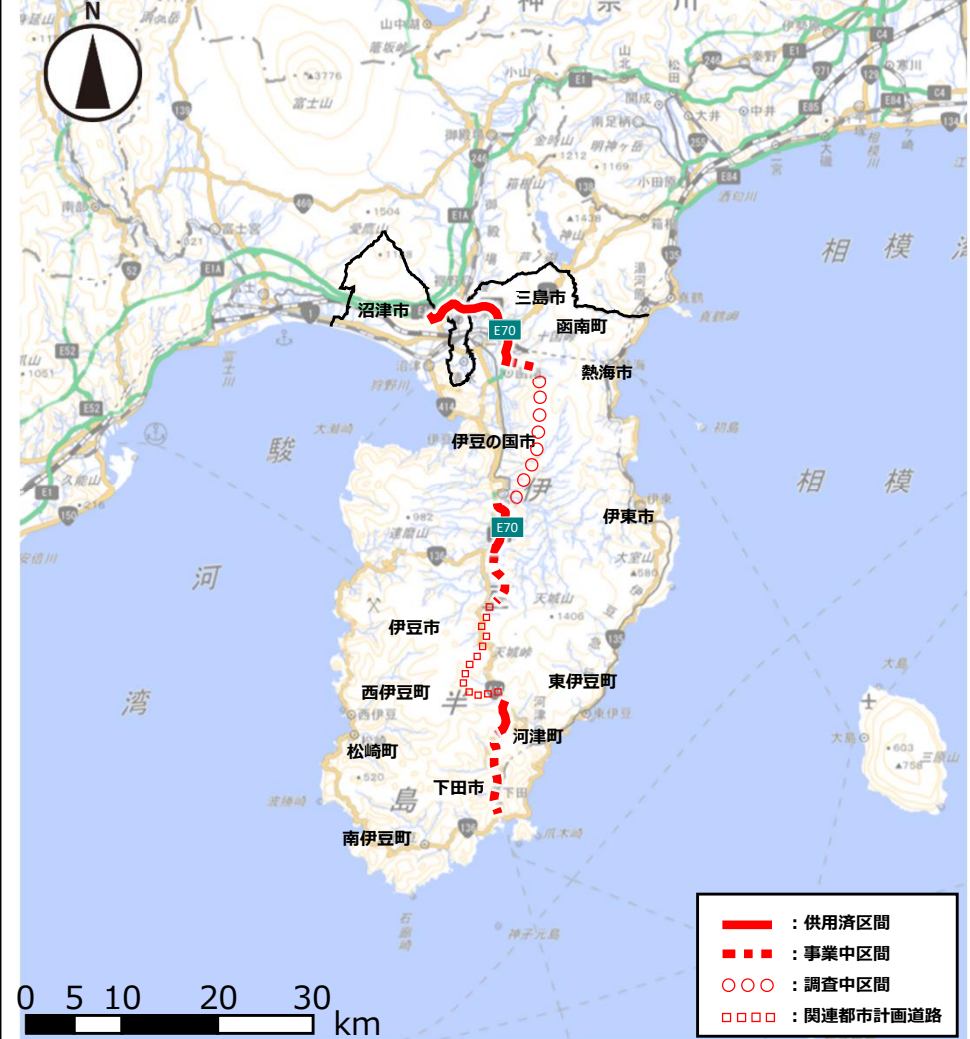
【能登半島】



約50万人

約2,700km²

【伊豆半島】



約55万人

約1,600km²

人口
(R2 国勢調査)

面積

2. 能登半島地震を踏まえた取組

半島防災の主な取組

1 「命の道」となる「伊豆縦貫自動車道」の整備促進

- 河津下田道路整備促進
- 天城峠道路早期工事着手・早期事業化

2 肋骨道路の整備推進

- 県道河津下田線整備推進
- 国道414号静浦バイパス整備推進
- 国道136号すれ違い困難解消(吉佐美)

3 道路ネットワークの強靱化(耐震対策・防災対策)

- 橋梁の耐震化や道路防災対策などの推進
- 盛土のり面の点検

4 防災拠点となる道の駅の機能強化

5 道路啓開計画の見直し



「命の道」となる伊豆縦貫自動車道 早期全線開通

2. 能登半島地震を踏まえた取組（道路啓開計画の見直し）

南海トラフ地震における半島・沿岸初動戦略検討会(伊豆エリア)

- 能登半島と同じような地形的特徴を有する伊豆半島では、南海トラフ地震が発生した場合には、能登半島地震による被害と同様な被害が想定
- そのため、被害想定に基づき、即地的・具体的な「総合啓開初動時オペレーションシナリオ」を作成するため、国や県、関係市町からなる検討会設置（R6.7.4設置）

<検討内容>

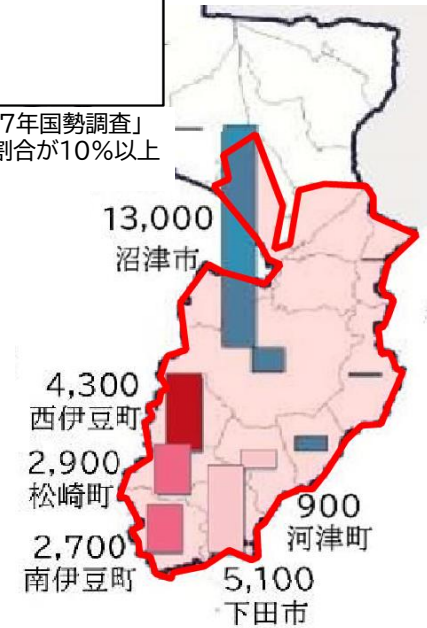
- 人命救助等初動時を目標として、関係機関と連携したインフラ行動計画を検討
 - ①連携する機関共通のタイムライン
 - ②優先する施設の明確化
 - ③行動計画ルール of 策定



第1回検討会の様子



※人口は総務省「平成27年国勢調査」
※人口に対する死者数割合が10%以上の自治体名を表示



南海トラフ巨大地震想定死者数
(静岡県第4次地震被害想定資料 抜粋)

東部地域道路啓開検討会

- 東日本大震災を踏まえ策定された「中部圏地震防災基本戦略」に基づき、県東部地域における道路啓開方針を取りまとめるため、国や県、関係市町、関係団体からなる検討会設置（H28.3.16設置）

<検討内容>

- 能登半島地震の教訓を踏まえて道路啓開計画の見直し

検討

- 救援ルート確保へ向けた啓開順序の検討
- 被害見直しの見直し(橋梁段差、斜面崩落、トンネル崩落)
- 具体計画詳細図の充実
- 災害時の通信手段の日常的な活用

訓練等

- 道路啓開行動確認訓練の実施
 - ・初動対応訓練、合同現地確認
- 道路啓開に関する実働訓練
- 関係者との会議(意見交換)の開催